

総務省予算執行監視チーム第8回会議 議事概要

1 日時 平成23年9月29日(木) 13:00~14:00

2 場所 総務省省議室

3 出席者

○ 外部有識者

有川 博 日本大学総合科学研究所教授川

井手 英策 慶應義塾大学経済学部准教授

北大路信郷 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

○ 総務省

松崎総務副大臣、黄川田総務副大臣、主濱総務大臣政務官、福田総務大臣政務官、森田総務大臣政務官、岡崎官房政策評価審議官、吉田大臣官房会計課長(事務局次長)、相馬大臣官房政策評価広報課長(事務局次長)、その他各局筆頭課長

4 議事

(1) 平成23年行政事業レビュー(「国丸ごと仕分け」)について

(2) 平成24年度予算概算要求に係る政策評価について

5 概要

(1) 平成23年行政事業レビュー(「国丸ごと仕分け」)について

資料1~3に基づき、平成23行政事業レビューの結果と平成24年度概算要求への反映状況について、事務局より説明し了承いただいた。

(2) 平成24年度予算概算要求に係る政策評価について

続けて、資料4に基づき、平成24年度予算概算要求に係る政策評価について、事務局より説明し了承いただいた。

○ 主な意見

- ・ 政策評価については、事前評価及び事後評価として適切に行われているが、実施中のものを見直す評価については行政事業レビューが担っている。従って、行政事業レビューは政策評価の中に取り込まれた方が実施前、実施中、実施後と全体的に評価できる体系になるのではないか。
- ・ 何が要らないか、という議論を続けるのではなく、何が重要なのか、何が必要なのか、という議論を行うことの方が国民にとって必要なことではないか。
- ・ 自己点検については、その根拠を特記事項において説明すべき。
- ・ (国と事業者との契約という点に関し)競争性をあまりにも重んじていると思われる。例えば研究開発等は中長期的な結果を出していくものであり、むしろ継続的な契約をできる仕組みの方が結果を出しやすい。

- ・ 評価指標が作れないというシートが多かったが、どうして作れないかのロジックの考え方は間違っている。評価指標は可能な限り作るべき。
- ・ ある程度の事業規模、予算規模のあるものは、評価コストを予算に含めるべき。
- ・ （行政に対する評価の方法としては）目標達成度を評価しようとした場合、10年後、20年後にならないと結果がわからないことが多く、そのために目標設定になじまないということができてくる。むしろ行政が毎日のオペレーションの質をいかに上げていくかについて評価することが重要。目標達成度はあくまでもガイドラインとし、活動評価を重視すべき。
- ・ 行政事業レビューは情報がたくさん詰まっている割には次の改善に結びつかないような気がする。もっとコンパクトに統合的に活動の質を評価できるものにすべき。

以上